

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	福岡県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	福岡市立飯倉小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	3	2	3	3	3	0	16	27
児童数	75	92	73	83	85	97	0	505	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を身に付けた子供の育成 —国語科・社会科における個に応じた指導の工夫改善を通して—
---

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

1年生・国語(全教科の基盤となる言語力の基礎・基本を確実に定着させるため)
2年生・国語(全教科の基盤となる言語力の基礎・基本を確実に定着させるため)
3年生・国語(全教科の基盤となる言語力の基礎・基本を確実に定着させるため)
4年生・社会(高学年として「問題解決力」の育成に力を入れるため)
5年生・社会(高学年として「問題解決力」の育成に力を入れるため)
6年生・社会(高学年として「問題解決力」の育成に力を入れるため)

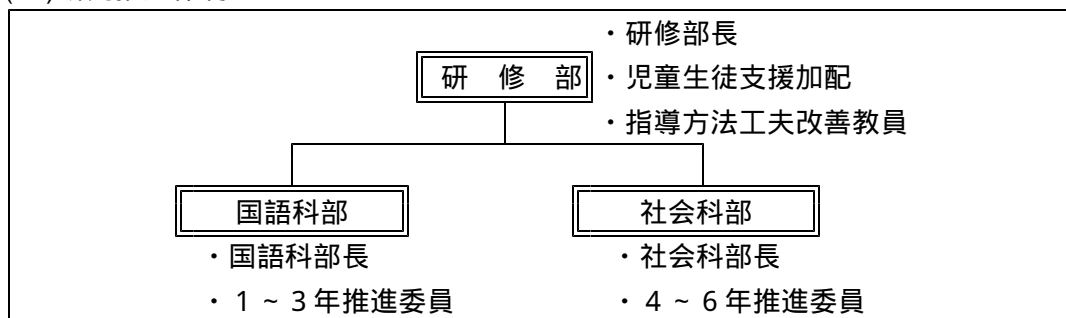
(2) 年次ごとの計画

	国語科部	社会科部
平成14年度	テーマ 基礎・基本の確実な定着を図る授業にどう取り組むか 研究の見通し 目標を児童の具体的な姿で分析し、体験活動や繰り返しの活動を取り入れた、きめ細やかな評価と指導の工夫を行えば、国語科の基礎・基本の確実な定着を図ることができるであろう。 研究内容・方法 全研授業・協議会、講師の講話 フロンティア公開授業・分科会	テーマ 児童にいかに問題意識をつかませるか 研究の見通し 児童の身近な生活の中から問題意識を明確にしたり、児童にとって意外性のある資料や、資料から分かるズレの提示をしたりすれば、児童が問題意識を強くもつことができるであろう。 研究内容・方法 全研授業・協議会、講師の講話 フロンティア公開授業・分科会

	国語科部	社会科部
平成15年度	<p>テーマ</p> <p>確かな言葉の力をつける追求活動をどう支援するか</p> <p>研究の見通し</p> <p>基礎・基本の定着を図るために「わかる つかう」という二段階の学習過程を仕組み、自己評価と教師の見とりを支援に生かす工夫をすれば、確かな言葉の力がつくであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>全研授業・協議会、講師の講話 フロンティア公開授業・分科会</p>	<p>テーマ</p> <p>学習計画をいかに立て、確かな事実をもとに見方・考え方をつくりあげる追求活動をどう支援するか</p> <p>研究の見通し</p> <p>社会科ワールドや体験の場を通してつくられた学習問題の解決に向けて、中間交流会、全体交流会を仕組み、自己評価と教師の見とりを支援に生かす工夫をすれば、確かな事実をもとに社会的事象について考える追究活動ができるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>全研授業・協議会、講師の講話 フロンティア公開授業・分科会</p>

	国語科部	社会科部
平成16年度	<p>テーマ</p> <p>子供の力をどう見とり、指導に生かしていくか</p> <p>発展・補充的学習にどう取り組むか</p> <p>研究の見通し</p> <p>年間を通した説明文の読みの基礎・基本の系統を明らかにし、「わかる つかう」という二段階の学習過程を仕組み、指導に生かす評価活動を工夫すれば、確かな言葉の力が育つであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>全研授業・協議会、講師の講話 フロンティア公開授業・分科会</p>	<p>テーマ</p> <p>交流活動をどう仕組むか</p> <p>発展・補充的学習にどう取り組むか</p> <p>研究の見通し</p> <p>児童が自分の追究のよさに気付く自己評価活動や交流の焦点化を図れば、思考が深まる交流活動を行うことができるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>全研授業・協議会、講師の講話 フロンティア公開授業・分科会</p>

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

国語科部	社会科部
<p>わかる段階、つかう段階の始めにこだわりをもつ工夫を行い、学習への意欲・関心を高めることができた。</p> <p>「わかる つかう」の繰り返しの学習で言語技能が定着してきた。</p> <p>フローチャート式自己評価によって、児童の状況を捉えると共に、児童は自分の学びをふりかえり次の学習への見通しをもつことができた。</p>	<p>社会科ワールドや体験の場を設定することで、教材との丁寧な出会いを実現できた。</p> <p>「社会科ファイル」「見つめようカード」による評価で、児童の状況を捉えることができた。</p>

2. 今後の課題

国語科部	社会科部
<p>教師の人数配置や役割の明確化など チームティーチングのあり方 発展的・補足的な学習の内容研究</p>	<p>教師の人数配置や役割の明確化など チームティーチングのあり方 発展的・補足的な学習の内容研究</p>

学力等把握のための学校としての取り組み

<p>新観点別到達度学力実態調査(CRT)の実施</p> <p>国語、算数、社会 年1回</p> <p>計算力、漢字力実態調査 学期1回</p>
--

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

<p>平成16年2月13日(金) 福岡市立飯倉小学校</p> <p>1～3年生(国語科) 4～6年生(社会科)による公開授業・各分科会</p>
---

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	7～12学級		
	13～18学級	19～24学級		
	25学級以上			
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	